

平成24年度
横浜市立高等学校
第三者評価結果

横浜市教育委員会
高校教育課

はじめに

高等学校の学校評価は、各高校が組織的・継続的な改革を進めるとともに、評価結果を公表することによって説明責任を果たし、保護者や地域住民の理解を得て、信頼される学校づくりを進めることができるよう、学校教育法ならびに学校教育法施行規則の定めるところにより、実施しています。各横浜市立高校では、毎年、教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行いその結果を公表するとともに、保護者その他の学校関係者による評価を行い、その結果を公表しています。

横浜市立高校については、それに加えて「横浜市立高等学校改革推進プログラム」（平成 19 年策定）及び「横浜市立高等学校教育振興プログラム」（平成 23 年策定）に基づいて、平成 21 年度より「第三者評価を活用した学校評価」を実施してきました。

横浜市立高校の「第三者評価を活用した学校評価」は、その学校に直接かかわりをもたない専門家等が、各横浜市立高校が行った自己評価及び学校関係者評価の結果を踏まえて、教育活動及び学校運営に対して専門的、客観的立場から評価を行い、学校運営の改善を促すことを目的としています。この「第三者評価を活用した学校評価」を充実することにより、教育委員会としても学校の現状と課題を的確に把握するとともに、課題改善に向けた取組を進めてきています。

本年度も、9 人の第三者評価者により、3 校の訪問調査による評価と、8 校の書面に基づく評価を行いましたので、その結果をとりまとめ、公表することといたします。

平成 24 年 10 月
横浜市教育委員会

目 次

I	平成24年度第三者評価の概要	
1	横浜市立高等学校評価の体系	2
2	平成24年度横浜市立高等学校第三者評価の経過	2
3	第三者評価者及び担当校	3
II	評価結果	
1	平成24年度第三者評価の概要	
	～横浜市立高等学校 教育振興プログラム中心のまとめ～	5
2	教育振興プログラムに示されていない項目の評価内容（抜粋）	6
3	書類調査校の評価	
(1)	横浜市立戸塚高等学校	7
(2)	横浜市立戸塚高等学校定時制	8
(3)	横浜市立横浜総合高等学校	9
(4)	横浜市立横浜商業高等校	10
(5)	横浜市立南高等学校	11
(6)	横浜市立金沢高等学校	12
(7)	横浜市立桜丘高等学校	13
(8)	横浜市立横浜商業高等学校別科	14
4	訪問調査校の評価	
(1)	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	15
(2)	横浜市立みなと総合高等学校	19
(3)	横浜市立東高等学校	23
5	第三者評価の活用	27
	参考資料	28

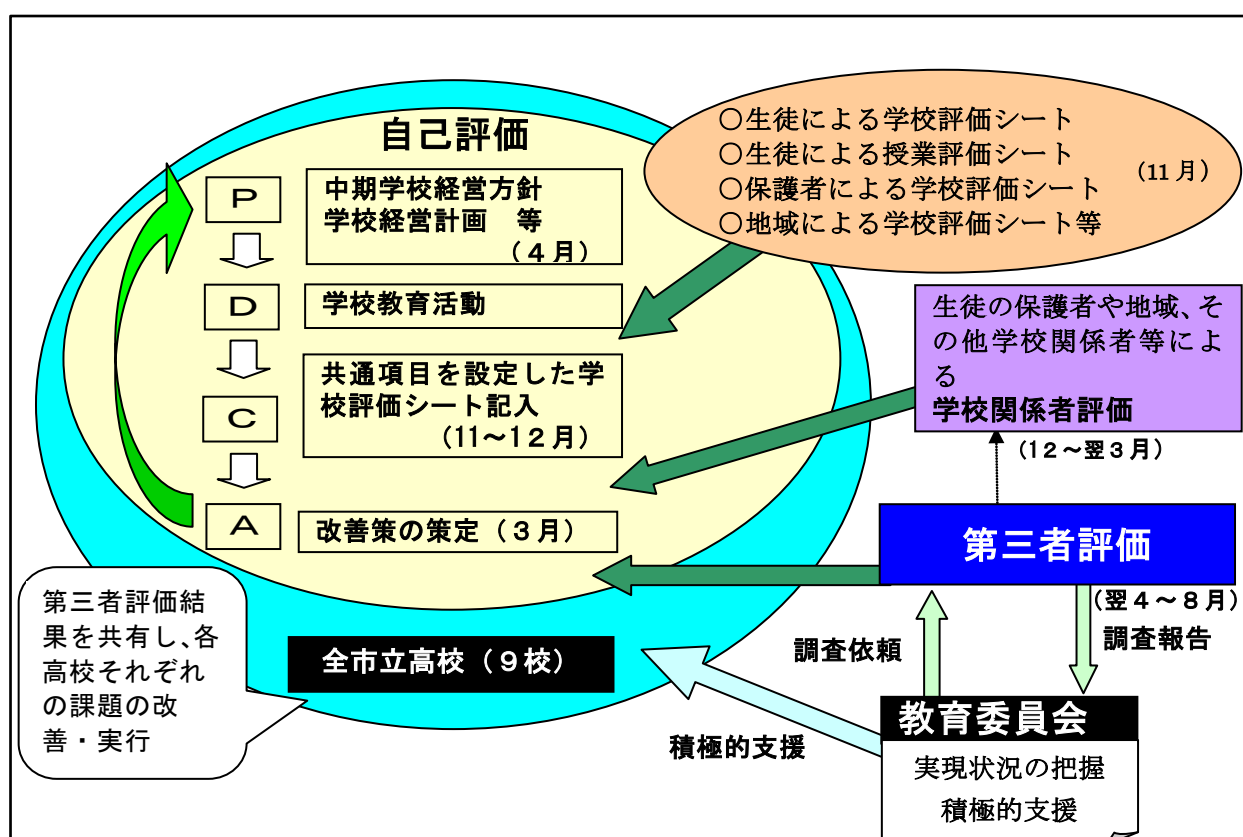
I 平成24年度第三者評価の概要

1 横浜市立高等学校評価の体系

横浜市立高等学校学校評価は次のように実施している。

- 各学校は平成23年度の自己評価（教職員、生徒、保護者、地域による学校評価）を行い、「自己評価」と「学校関係者評価」の結果を基に「自己評価書」を作成。
- 外部の専門家等による学校運営に関する「第三者評価」の実施
- 教育委員会は、第三者評価結果を、「平成24年度横浜市立高等学校第三者評価結果」としてとりまとめ、公表。
- 学校評価の結果を、各学校は、教育活動及び学校運営の改善につなげ、教育委員会は、各学校の教育環境の改善に向けた必要な措置など、教育行政の施策に生かす。

次の図は、以上の流れを図にまとめたものである。



2 平成24年度横浜市立高等学校第三者評価の経過

自己評価書等の作成と教育委員会への提出 (平成24年5月15日)

各学校は平成23年度に自己評価を行い、「自己評価書」及び「学校関係者評価書」を5月15日(火)までに教育委員会に提出。

書類調査の実施 (平成24年6月11日)

9名の第三者評価者を3人1チームの3チームに編成し、学校から提出された「自己評価書」及び「学校関係者評価書」を基にして、副校長や学校評価担当の教員へのヒアリングによる書類調査を実施。

訪問調査の実施

平成 24 年 6 月 25 日：横浜サイエンスフロンティア高校
 平成 24 年 7 月 3 日：みなと総合高校
 平成 24 年 7 月 6 日：東高校

書類調査と同様に 3 チームを編成し、3 校の訪問調査を実施。調査内容は、授業参観、施設・設備の観察、教職員（校長・副校長・教務主任等）からのヒアリング、在校生との対話である。第三者評価者は教育委員会に調査結果を報告した。

3 第三者評価者及び担当校

氏名	所属等	担当校	
		上段：書類調査校	下段：訪問調査校
上野 淳	首都大学東京 副学長	横浜総合高校、横浜商業高校、南高校、 横浜サイエンスフロンティア高校	
落合 優	横浜創英大学教授	戸塚高校、戸塚高校定時制 東高校	
小松 郁夫	玉川大学教職大学院教授	戸塚高校、戸塚高校定時制 東高校	
千賀 重義	横浜市立大学名誉教授	金沢高校、横浜商業別科、桜丘高校 横浜サイエンスフロンティア高校	
高瀬 茂	横浜市立中学校長会 横浜市立山内中学校長	横浜総合高校、横浜商業高校、南高校 みなと総合高校	
田代 正樹	株式会社たしろ薬品 代表取締役社長	横浜総合高校、横浜商業高校、南高校 みなと総合高校	
長島 由佳	横浜市PTA連絡協議会 会長	金沢高校、横浜商業別科、桜丘高校 横浜サイエンスフロンティア高校	
永野 和行	横浜教育支援センター 主任指導員	金沢高校、横浜商業別科、桜丘高校 みなと総合高校	
林 誠之介	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校長	戸塚高校、戸塚高校定時制 東高校	

※所属等は調査時のものである

II 評価結果

1 平成24年度第三者評価の概要(評価対象となる期間は平成23年度) ～横浜市立高等学校 教育振興プログラム中心のまとめ～

次の概要は、7ページ以降の各学校の評価の中から要点を整理したものです。

◎評価できる取組 ●改善すべき課題

目標1 世界で活躍する人材育成のために、横浜らしい教育を推進します

重点施策1 中高一貫教育校の設置

《南高校》

- ◎ 6年間の学習を踏まえた教育課程の編成
- 迅速かつ大胆な課題解決の取組

重点施策2 理数教育の充実

《横浜サイエンスフロンティア高校》

- ◎ 科学系オリンピックで、生物金賞・地学金賞・化学銀賞受賞及び科学の甲子園の県予選準優勝

重点施策3 国際教育の推進

《みなと総合高校》

- ◎ 留学生や海外高校生訪問団の積極的な受け入れ
- より多くの生徒に体験・学習の機会の提供

《横浜商業高校》

- ◎ 国際学科における、一人ひとりにきめ細かい指導による国際感覚等の育成

目標2 生徒の将来を見据えて、進路実現のための支援をします

重点施策4 学力向上及び進路指導の充実

《桜丘高校》

- ◎ 進学プロジェクトチームの設置、学力向上先進校の視察と成果の共有
- 「進学指導重点校」へ向けた取組の生徒及び保護者への説明による協力体制の構築

《金沢高校》

- ◎ 主体的な学習の一助となる視聴覚教材を活用した特別講座を開設し、延べ130名が受講
- 視聴覚教材を活用した特別講座のより一層の改善

《東高校》

- ◎ 研究授業の継続による授業力の向上

重点施策5 大学との連携拡充

《桜丘高校》

- ◎ 横浜国立大学との連携事業とした1年生全員対象のインターンシップ体験を実施

重点施策6 キャリア教育の推進

《横浜商業高校別科》

- ◎ 地域の敬老会と連携による「モデル実習」を開催
- コミュニケーション能力を身に着けるための教育の充実

目標3 多様なニーズに対応したきめ細やかな教育を推進します

重点施策7 専門コースなどの設置と定時制の企業連携

《戸塚高校》

- 課題の洗い出しと解決策に関わる検討が必要

重点施策8 特別な支援を要する生徒への教育の充実

《横浜サイエンスフロンティア高校》

- ◎ 問題を抱えている生徒の情報を全教職員で共有し、問題を早期解決

目標4 学校の組織力を向上させるとともに、信頼される教職員を育成します

重点施策9 教育内容の改善と学校評価

《全校》

- ◎ 第三者評価を活用した学校評価の実施

《横浜総合高校》

- 多部制独特の課題改善の必要

重点施策10 教職員の育成

《東高校》

- ◎ 年1回以上の教員の研究授業継続による、授業力向上

- 授業力底上げに向けた組織的な取組が必要

《金沢高校》

- ◎ 教職員対象の進路研修会等による共通理解の深化

- 教職員の研鑽に対する意識高揚が必要

2 教育振興プログラムに示されていない項目の評価内容（抜粋）

◎ 研究授業による授業力の向上 《金沢高校等》

◎ 各教科の評価規準、評価方法の共通理解

《桜丘高校等》

- 日常的かつ組織的な授業改善が必要

《戸塚高校等》

◎ 生徒会、学校行事の活動内容について高い評価 《東高校等》

- さらに深い地域・保護者とのコミュニケーションを図る必要 《南高校等》

◎ 生徒会活動活性化の取組

《横浜サイエンスフロンティア高校等》

◎ 地域や小中学校との連携・交流はまちの学校として評価 《横浜商業高校等》

◎ 養護教諭・スクールカウンセラー中心の生徒理解 《みなと総合高校等》

● 学力の向上とキャリア教育の一層の推進 《横浜総合高校等》

● 様々な先生に相談できる体制の構築 《横浜商業別科等》

◎ 学校設定教科「学び直し」の成果への期待 《戸塚定時制》

3 書類調査校の評価

■：重点取組項目

(1) 横浜市立戸塚高等学校(書類調査日：平成 24 年 6 月 11 日)

書類調査担当者：落合 優、小松 郁夫、林 誠之介

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

■特色ある学校づくりの推進状況

優れた取組	○単位制の長所を生かしながらより確かな学力向上に向けた研究・討議等を通じて教職員が一体となり取り組んでいる。
改善すべき課題	○音楽コース設置に伴う学校施設利用の調整、補習場所の確保などの課題の洗い出しと解決策に関わる検討を望む。

2 教育活動の状況

優れた取組	○登下校中のマナー改善のために繰り返し指導を行い、改善を図っている。
改善すべき課題	○学力診断テストや学校評価アンケート結果を活用し、 <u>授業改善に向けた取組を推進し、授業力向上</u> を目指してほしい。 ○学校・生徒・保護者間での健康・安全への意識の共有が望まれる。環境美化については、定時制との緊密な連携により改善を図ってほしい。

3 学校経営の状況

優れた取組	○経年変化や震災の影響などを考慮し、詳細な施設点検を行っている。 ○連携教育プロジェクト、ボランティアセンター、グリーン友の会などを中心とし、地域社会・小中学校・幼稚園との連携を図り、学校理解に役立っている。 ○ <u>学校説明会、プリント配布等で積極的に情報公開を行っている</u> 。学校ホームページは、生徒、保護者、受検生、一般の方、それぞれにとって、わかりやすいものとなっている。
改善すべき課題	○毎年定例的に行うルーチン的な業務については、委員会から校務分掌に担当を移すなどして、 <u>教科横断的な委員会組織数を縮小する</u> 方向での検討を望む。 ○個人情報保護や情報管理の重要性について、一層の指導を望む。 ○防犯カメラの設置台数増加など不審者対策の一層の充実や、生徒の防犯意識の向上が必要と思われる。 ○学校ホームページやメール配信の充実とともに、具体的に発信する内容についてコーディネートする人材や組織が必要と思われる。

4 総合所見

□所見

○地域との結びつきが強い学校で、 <u>頼りになる高校生に地域が期待する場面も多い</u> と考える。 <u>まちの学校として、様々な連携事業を探ってもらいたい</u> 。 ○新教育課程については、5つの系列を基本にしつつ、生徒一人ひとりの大学進学等のニーズに応えるため、可能な限り弾力的な運用を期待する。 ○授業改善については、校内の人材活用やOJTを通じて日常的かつ組織的に取り組んでほしい。 ○生徒会活動への生徒の満足度が高く、おおいに評価できる。今後も自主的な活動を支援してほしい。
--

(2) 横浜市立戸塚高等学校定時制(書類調査日：平成 24 年 6 月 11 日)

書類調査担当者：落合 優、小松 郁夫、林 誠之介

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

■特色ある学校づくりの推進状況

優れた取組	○学校に対する生徒、保護者の満足度が高く、 <u>学校教育目標の実現に向けた教職員の取組が成果を上げている</u> と判断できる。
改善すべき課題	○ <u>夏季補習の充実による基礎学力の定着</u> 、教育相談・キャリアガイダンスの充実などの実現に向けた取り組みが望まれる。

2 教育活動の状況

優れた取組	○1, 2 年生には基礎基本の科目を、3, 4 年生には進路や適性に応じた選択科目を設置している。 ○生徒の実態を踏まえ、実技・実習科目の配置や、習熟度別指導、チームティーチングの採用、1 年生に対して学び直し授業の配置なども行われている。 ○ <u>登校指導や下校指導の実施などを通して、生徒とのコミュニケーションを一層図り、生徒との信頼感の構築のための取組</u> が行われている。
改善すべき課題	○現在の授業に対する生徒の満足度は高いが、わかる授業や参加型授業への改善に向けて、戸塚高校全日制や他校の授業を参観するなどの <u>授業研究を進めてほしい</u> 。 ○積極的な情報収集や教師相互の共通理解も視野に入れた生徒指導や教育相談の展開を望む。

3 学校経営の状況

優れた取組	○様々な教育活動を通して教育目標の実現に向けた取組がなされ、戸塚高校定時制検討委員会により教育目標やマニフェストの適切化への検討も行われている。 ○不審者対策の一環で「生徒の帰り道見回り隊」の活動の中で下校時に最寄り駅までの見守りを行い、 <u>生徒の自己防衛意識を育てる</u> ことに効果があった。
改善すべき課題	○教育目標、具体的な取組などについて、学校ホームページや紙媒体、あらゆる指導場面などとおして、教職員の意図するものを生徒・保護者に継続的に伝えてほしい。 ○ <u>定時制検討委員会による教育目標の検討をさらに進めてほしい</u> 。防犯訓練の実施や、防犯対策の強化が望まれる。災害時の対応に関する保護者への情報の周知をより徹底させる必要がある。

4 総合所見

□所見

<p>○夜間定時制という制限の中で、適切な学校教育目標を立てた教育課程が編成され、定時制の生徒に特有な心身の問題への対応、進路指導に関わる情報収集や職員相互の連携、ガイダンスの適正化などについて、真剣に向き合った教育活動が展開されている。</p> <p>○平成 23 年度は全国大会に出場する部活が 3 つあり、活動時間が短い中でも工夫して成果をあげていることは評価できる。</p> <p>○平成 24 年度から実施される学校設定教科「学び直し」の成果に期待する。</p>
--

(3) 横浜市立横浜総合高等学校(書類調査日：平成 24 年 6 月 11 日)

書類調査担当者：上野 淳、高瀬 茂、田代 正樹

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

■特色ある学校づくりの推進状況

優れた取組	○課題解決に臨機応変に対応する体制構築に向け、定例の管理職・主幹教諭の会議を開催してきた点や 多部制定時制検討委員会を設置し、多部制の将来像について踏み込んだ論議を重ねてきた点 は評価できる。
改善すべき課題	○多部制の困難点として教職員のコミュニケーションが持ちにくい、 生徒同士の交流の場が持ちにくいなど、多部制独特の課題があり、改善の必要がある。 ○平成 24 年度から専任カウンセラーの派遣時間が増える見通しとなったのは大きな成果であるが専任カウンセラーの増員も検討してほしい。

2 教育活動の状況

優れた取組	○多部制定時制検討委員会の提言により、平成 25 年度以降も三部制継続となった。それを踏まえての新教育課程の再編成を検討するなど重点施策を中心に日々着実に取り組まれ課題を克服している。 ○進路適性検査、進路ガイダンス、就職ガイダンスを実施するなど進路選択に向けての動機付けを 1 年次から行い、 進路相談が気楽に出来るという生徒の評価があり、きめの細かい進路に対する支援 は評価できる。
改善すべき課題	○履修率向上のために各教科担当から各科目の内容のガイダンスや担任による面談を通してわかりやすくまた詳細に伝えるなどの取り組みが必要である。 ○卒業生の 4 割が進路未定という状況があり、 基礎的な学力の向上を図るとともに、キャリア教育の一層の推進 を図り、自立支援を進めてほしい。

3 学校経営の状況

優れた取組	○学校移転という大事業を控えている中、 課題をうまく抽出し、整理し、着実に取り組まれている ところは評価できる。 ○ 三者懇談会が保護者、生徒、教職員をつなぐ有効な会 になっている。今後もこの会を保護者、地域、生徒、学校をつなぐ会として有効に活用してもらいたい。
改善すべき課題	○学校移転に伴いこれからも新たな課題が発生してくるので、課題は今から想定し、対応策を講じておく必要がある。 ○ 三者懇談会の開催日や開催時間にバリエーションをつくり、一人でも多くの保護者、PTAが参加しやすい環境 を作してほしい。

4 総合所見

□所見

○三者懇談会は独自の取り組みで、保護者、地域、生徒、学校をつなぐ有効な手段であると思う。今後も、風通しの良い学校づくりを進めていただきたい。 ○三部制の難しい運営体制の中で、生徒にとってより良い環境づくりに努めている。 学校だけでなく保護者・地域と協働し、学校を運営 していただきたい。

(4) 横浜市立横浜商業高等学校(書類調査日：平成 24 年 6 月 11 日)

書類調査担当者：上野 淳、高瀬 茂、田代 正樹

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

■特色ある学校づくりの推進状況

優れた取組	○国際学科においては国際感覚、異文化間コミュニケーション能力、問題解決能力の3つの力を育成する取り組みを行い、 <u>生徒一人ひとりにきめ細かい指導</u> を行っている。
改善すべき課題	○商業科では、スポーツマネジメント科の設置に向けて、特色ある教育課程への編成の話し合い等が行われたが、 <u>設置の主旨を踏まえて選考方法を十分に討議</u> してほしい。

2 教育活動の状況

優れた取組	○商業科YBCクラスの設置が3年目となり、生徒の多様な進路実現に向けた教育課程・教育内容の改善に努めている。 ○英検やGTECなど資格取得への対応は評価できる。今後も積極的に資格取得に取り組んでほしい。 ○携帯電話使用などのマナー、遅刻防止のための声かけ、朝の校門での挨拶運動など、地道な取り組みが功を奏してきている。 ○商業教育を柱に教育活動を展開し、大学進学希望が増加するなど生徒の多様な進路希望に対応する <u>特色ある教育課程の編成、教科指導の展開</u> をしている。
改善すべき課題	○カウンセリングルームの使用が活発化されるなどカウンセラーを必要とする生徒が増えているので対策を講じてほしい。 ○教科指導についてわかりやすい授業を行っているかについて <u>職員の意識と生徒の意識にギャップ</u> がある。その要因を明らかにして改善する必要がある。 ○家庭学習の習慣が身に付いていないと自覚している生徒が多いことも基礎・基本の定着という観点から改善が図られる必要がある。

3 学校経営の状況

優れた取組	○教職員の信頼関係構築により、一人ひとりが意欲を持って力を発揮している。 ○高等学校では珍しい「おやじの会」の活動を通して地域の方々や小学校、中学校との連携、交流をしていることは地域とのつながり、 <u>まちの学校として素晴らしい</u> ことである。
改善すべき課題	○ <u>防犯対策について保護者と学校の間にあるギャップ</u> を探り、早急に改善をしてほしい。

4 総合所見

□所見

○社会環境が大きく変化していく中で、伝統を守りながらも、国際教育の推進や高大連携、学力向上、進路指導の充実等の取組の成果が期待される。 ○ <u>学校ホームページを充実させて、学校情報の発信</u> に取り組んでいることは評価できる。さらに、幅広く意見交換等ができるように保護者会や面談の工夫、新しいコミュニケーションツールを活用し、保護者との連携強化を図ってほしい。

(5) 横浜市立南高等学校（書類調査日：平成 24 年 6 月 11 日）

書類調査担当者：上野 淳、高瀬 茂、田代 正樹

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

■特色ある学校づくりの推進状況

優れた取組	○本年度スタートした中高一貫教育の各種準備など多岐に渡りきめ細かく取り組まれ、 <u>学力向上を重視する体制づくりに努めた</u> ことは評価できる。
改善すべき課題	○ <u>課題解決の際には、迅速にまた大胆に取り組む</u> ことを期待する。

2 教育活動の状況

優れた取組	○平成 25 年度からは単位制から学年制へと変更になるが、単位制を生かした選択科目の多様さは生徒からの評判も良い。今後とも更なる向上を目指して取り組んでほしい。 ○生徒は全般的に落ち着いており、生徒指導等に全職員が組織的に取り組むなど生徒の生活習慣の確立に努力している。特に、担任による面談時間の増加などにより、 <u>生徒と教職員とのコミュニケーションが向上</u> し、保護者の理解が深まってきたことなどは評価できる。
改善すべき課題	○中高一貫教育の特色を生かすため、中学校職員との協力体制を一層強化し、 <u>6年間を見通した教育課程が円滑に進行</u> するように検討、計画をしてほしい。

3 学校経営の状況

優れた取組	○学校経営会議が学校内で発生する多岐に渡る課題や問題点を解決へ導く中心的存在としてよく機能している。 ○学校設定教科として「教育」があり、 <u>授業や部活動で近隣の小中学校と連携</u> を図っていることは評価できる。 ○メール配信を導入し、学校行事や緊急時の対応に利用し危機管理対策に積極的に取り組んできたことは評価できる。
改善すべき課題	○「学力向上推進委員会」と「中高一貫教育校推進会議」の早期設置と取り組み成果を期待する。 ○保護者懇談会の内容の見直しや地域を巻き込んでの事業の展開などさらに <u>深く地域・保護者とコミュニケーション</u> を図ってほしい。

4 総合所見

□所見

<p>○附属中学校と高校との連携・協力のパイプをより一層太くし、6年間を見通して学校教育目標の実現を図るために、生徒・保護者の学校へのニーズを把握し、様々な課題解決に向けて努力したい。</p> <p>○高校生が中学生を指導する場面を作ることは高校生にとっても中学生にとっても様々な点で効果効用がある。部活動や学校行事に限らず、色々な場面で<u>高校生が先頭に立って指導して、南高校の全人教育を推進</u>してほしい。</p> <p>○生徒が6年間通う学校であり、地域との繋がりや地域への愛着も醸成されてくる。学校としてはより一層地域との連携に力を注いでいく必要がある。</p> <p>○市内唯一の中高一貫教育校として、これからも注目されると思われる。<u>モデル校として着実に前進</u>することを期待する。</p>
--

(6) 横浜市立金沢高等学校（書類調査日：平成 24 年 6 月 11 日）

書類調査担当者：千賀 重義、長島 由佳、永野 和行

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

■特色ある学校づくりの推進状況

優れた取組	○高大連携事業の推進、視聴覚教材を活用した特別講座の開設、夏期講習を72講座開設など、様々な取組を行い、 <u>生徒の学力向上</u> を図った。 ○家庭学習の定着を促す授業ガイダンスなど、 <u>教科指導の改善</u> に向けての取組や始業を早くして学習と特別活動・部活動の活動時間確保について配慮されている。
改善すべき課題	○高大連携事業や視聴覚教材を活用した特別講座において <u>生徒の要望や感想を広く集め、一層魅力ある内容に改善</u> していくことが望まれる。

2 教育活動の状況

優れた取組	○ <u>生徒一人ひとりに対するきめ細かな進路指導及び教職員対象の進路研修会等</u> は共通理解を深めるのに役立っている。これらは生徒の進路実現に向けた評価できる取組である。
改善すべき課題	○希望進路実現に向けて <u>授業と家庭学習の重要性についてなお一層理解させてほしい</u> 。 ○現行の <u>保護者対象の進路学習会をさらに工夫</u> することにより、保護者の進路に対する知識や意識をさらに深め、生徒や保護者の安心にもつながると考える。

3 学校経営の状況

優れた取組	○ <u>授業力の向上を目指した研究授業</u> を行っている。学校評価結果より、その成果が表れていると判断できる。 ○緊急メール配信システムを導入するなど、情報伝達の改善が図られたことは評価できる。
改善すべき課題	○保護者や生徒の学校評価から <u>教員の指導のばらつきに懸念</u> が表明されているので、結果について保護者への説明が必要である。 ○文理特進コースの問題点の整理をし、さらなる改善をしてほしい。 ○学校教育目標、教育活動の広報として、学校ホームページのさらなる拡充を図ってほしい。

4 総合所見

□所見

<p>○文理特進コース3年目を迎え、一般コースとの関係や特別活動との調和など、文理特進コース定着へ向けた努力が実りつつある。生徒の声に耳を傾け、改善を続ける必要がある。</p> <p>○進学指導重点校として、様々な学力向上の取組は評価できる。現在の<u>取組の結果を評価し、工夫改善に努めてほしい</u>。</p> <p>○老朽化した施設・設備の改善に課題があるので、中長期的な施設改修計画を立ててほしい。</p> <p>○学力向上はもちろん大切だが、特別活動や部活動のさらなる充実により、<u>将来リーダーとしての幅のある人間力の育成</u>に期待する。</p>
--

(7) 横浜市立桜丘高等学校（書類調査日：平成 24 年 6 月 11 日）

書類調査担当者：千賀 重義、長島 由佳、永野 和行

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

■特色ある学校づくりの推進状況

優れた取組	○生徒の学習習慣の定着を図ることを目的とした「 <u>オリエンテーションブック</u> 」を作成し、それを使って指導することにより学力向上を図った。
改善すべき課題	○ <u>教職員の校務が増加している</u> ので、教職員の仕事の配分状況を整理し、できるだけ生徒対応に時間があてられるよう、学校全体としてさらなる改善を図ることが望まれる。

2 教育活動の状況

優れた取組	○期末試験の回数を増やし、定期試験の間隔を短縮することにより生徒の学力定着を図った。 ○各教科における <u>評価規準、評価方法等の職員の共通理解</u> を図り、適切な評価方法についての研修を深めた。 ○長期休業期間に全学年に補習を行い、受講生が 22 年度より倍増した。 ○保護者向け進路学習会の複数回実施をし、本校の進路指導についての理解を深めることができた。
改善すべき課題	○「 <u>進学指導重点校</u> 」へ向けた取り組みを生徒及び保護者へ説明を行い、深く理解し、協力体制を築いてほしい。 ○生徒一人ひとりの学力を伸ばす支援について教職員で討議を重ねてほしい。

3 学校経営の状況

優れた取組	○教育目標について、教職員の共通理解があり、教職員が教育目標実現に向けて一丸となって取り組んでいる。 ○学校ホームページの活用が広がり、保護者からの期待も高まっている。今後も <u>保護者の期待する学校情報を常に更新</u> して保護者の期待に応えてもらいたい。
改善すべき課題	○校務の見直しを行い、 <u>分掌組織を再編成したが円滑な運営が出来ているか否かの検証</u> を行ってほしい。 ○防災対策や防犯対策について、保護者や地域への広報を徹底して進め、生徒・保護者や地域から信頼される学校を目指してほしい。

4 総合所見

□所見

<p>○横浜市立高校教育振興プログラムにより、様々な施策が懸命に推進され、一定の成果が挙げられている。ただ、学校教育目標は、あくまで「知育、徳育、体育の調和的な伸長を図る」ことにあることを、全教職員が十分に意識されて教育活動に努めてもらいたい。</p> <p>○伝統校として数字に現れない生徒の人間力（意欲、思いやり等々）の育成にも今後もより一層努めてもらいたい。</p> <p>○平成 24 年度からの教育委員会指定の「進学指導重点校」に向けて、約 20 の先進校への視察を行い、その成果を教職員で共通理解を深めるなど、着実に取り組まれていると判断できる。<u>桜丘の生徒の良さを生かし、より良い進学指導を推進</u>してほしい。</p>
--

(8) 横浜市立商業高等学校別科（書類調査日：平成24年6月11日）

書類調査担当者：千賀 重義、長島 由佳、永野 和行

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

■特色ある学校づくりの推進状況

優れた取組	○現在一線で活躍している卒業生を講師として迎え、体験談や技術指導を受け、 <u>現役生に刺激や意欲を喚起している取組</u> が評価される。 ○種々のコンテストに参加することで、生徒に一層の向上心を育成している。
改善すべき課題	○理容・美容業界で働くために必須である、 <u>コミュニケーション能力を身に着けるための教育の充実</u> が望まれる。

2 教育活動の状況

優れた取組	○国家試験の課題変更に対応して、 <u>教育過程や授業内容を見直し、合格率を確保</u> できている。 ○文化祭を始めとした学校行事や生徒会行事では生徒の主体性を生かしている。生徒の自主性及び自立性を促す指導をこれからも望む。 ○教職員が一体となって一人ひとりの生徒の状況を把握し、適確な指導を行う努力がうかがえる。 ○進路指導専任いない別科において、2年担任が中心となって国家試験全員合格や就職希望者全員就職を目指して実習や教科等の学習指導の充実及び工夫に努めている。
改善すべき課題	○多くの生徒に教育課程は興味あるものになっているものの、生徒の評価の中には否定的な回答もあり、その理由を精査し、改善すべき課題を探る必要がある。 ○組織的に進路指導を行い、 <u>生徒が様々な先生に相談できる体制</u> を構築してもらいたい。

3 学校経営の状況

優れた取組	○教育目標が明確で、その目標の実現に向けて教職員が一丸となって取り組んでいる。 ○ <u>モデル実習や地域清掃などの地域に貢献する取組</u> が継続的に取り組まれ、地域とともに歩む本校別科として地域から認識されている。
改善すべき課題	○生徒は理容師または美容師になるために実習中心に学習しているが、 <u>実習以外の学習もおろそかにさせない取組や生徒の理想となる理容師像、美容師像の育成</u> が必要である。 ○現行の地域との連携をさらに充実させ拡充したい。また、地域と連携し災害時に備える準備を一層充実させることも必要である。

4 総合所見

□所見

○国家試験の課題変更に対応して <u>教育課程や授業内容変更</u> に迅速に対応し、 <u>高い国家試験合格率を維持している。</u> ○将来、理容・美容に従事する生徒にとっては、学校行事等での生徒の主体性を生かした教育が非常に重要である。 ○ <u>各種競技会での優勝を目指し、理美容業界をリードする人材育成</u> に努めてほしい。

(1) 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

(訪問調査日：平成 24 年 6 月 25 日)

訪問調査担当者： 上野 淳、千賀 重義、長島 由佳

横浜サイエンスフロンティア高等学校の概要

創 立：平成 21 年 4 月

住 所：横浜市鶴見区小野町 6

学 校 長：栗原 峰夫

課 程 等：単位制による全日制の課程 理数科

クラス数：18 クラス

生 徒 数：706 名（男子 520 名、女子 186 名）（平成 24 年 5 月 1 日現在）

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

■特色ある学校づくりの推進状況

優れた取組	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上及び進路指導の充実に取り組み、本年 3 月の第一期卒業生 231 名中、<u>国公立および難関私立大学などに 120 名の合格者</u>を出した。 ○理数科高校として、理数教育の充実に取り組み、科学系オリンピックに参加し、地学・生物学での金賞受賞者を輩出した。さらに、国際交流活動や、英語による授業などに果敢に取り組んでいる。
改善すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>科学オリンピックへの参加、取り組み体制を整え、さらに参加者を増やしていく必要がある。</u> ○理数教育に特化しつつも、文系大学に進学する生徒が一定程度存在することについての意義等を再確認する必要がある。

2 教育活動の状況

(1) 各教科等の状況

□教育課程の状況

優れた取組	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>生徒の好奇心や知識欲を刺激し、科学研究への意欲を掘り起こす</u>ような学校環境づくりやカリキュラム編成が行われている。 ○総合的な学習時間で「Science Literacy」の実施は他校にはない授業であり、科学への関心を高めている。
-------	---

改善すべき課題	○生徒の希望進路実現に向けて、次年度の科目選択が適切に行われるように、生徒には <u>様々な科目選択に関連する情報を提供</u> するなどして、より丁寧な指導が望まれる。
---------	---

■教科指導の状況

優れた取組	○日常の授業以外に <u>土曜講習・夏季講習・冬季講習等の特別講習</u> が行われ、生徒の学力や進路に応じた教育が進められている。 ○講習会への参加者が多く、生徒のニーズを満たす内容になっていると判断できる。
改善すべき課題	○すべての生徒がどの教科の学習に対しても積極的に取り組んでいるわけではないので、学習に対して <u>受動的な生徒の意欲を引き出す</u> ための工夫が求められる。

□特別活動・部活動の状況

優れた取組	○約7割の生徒が部活動に参加し、生徒の部活動に対する満足度も高いものになっている。生徒会活動も <u>生徒会事務局を中心に各種委員会活動の活性化に取り組んでいる。</u>
改善すべき課題	○前向きに活動している部活動や活発に活動している生徒会活動も、地域や近隣の小中学校との連携について、一定の実績をあげているが、 <u>さらに連携可能な内容を探してほしい。</u>

(2) 生徒の状況

□生徒指導・教育相談の状況

優れた取組	○問題を抱えている生徒について、 <u>全教職員で情報を共有し、理解する取組や個別指導によって問題を早期解決</u> している。
改善すべき課題	○スクールカウンセラー、教職員、家庭の協力体制の強化やスクールカウンセラー増員など、 <u>生徒の心のケアをさらに充実</u> させる必要がある。

■進路指導の状況

優れた取組	○ <u>大学訪問等の進路指導のための様々な企画</u> が設けられ、生徒の大学選択や学習に良い影響が与えられ、それらの企画が1期生の大学進学実績につながったと思われる。
-------	---

改善すべき課題	<p>○進路指導は進路指導部や年次団を中心にした指導が行われ、充実した指導が行われているが、入学後の早い段階から、<u>生徒一人ひとりの進路に関する相談の時間を確保し、適切な支援や指導</u>を行ってほしい。</p> <p>○「進学準備中」の卒業生に対する、進路指導の方策を考えていく必要があると考えるので検討してほしい。</p>
---------	---

□保健指導及び環境美化の状況

優れた取組	○開校4年目で校舎は清潔に保たれている。校内美化の推進やごみの分別指導も <u>十分に浸透している</u> と判断できる。
改善すべき課題	○ <u>健康に関する意識を高める取組</u> をさらに進めてほしい。

3 学校経営の状況

(1) 各管理運営等の状況

■教育目標の設定・実施状況

優れた取組	○教育理念や教育方針、教育目標を生徒や保護者に周知し、 <u>生徒が目標を持って生活</u> できるよう指導している。
改善すべき課題	○教職員が、なお一層、学校運営に参加しているという意識をもてるよう、 <u>職員間の話し合いの場や情報共有の時間を多く設定</u> する必要がある。

□組織運営及び教職員研修の状況

優れた取組	○他の市立高校では教科毎に研究準備室が設置されているが、大職員室のメリットを生かして、職員間の情報共有が促進され、 <u>チーム力が発揮される環境</u> がある。
改善すべき課題	○教職員の力量を高めるための <u>研究・研修体制が十分に整えられていると判断していない教職員が約5割</u> いるので、原因を分析し解決策を講じる必要がある。

□学校経理、施設・設備及び情報の管理状況

優れた取組	○経理においては中間監査を保護者に行ってもらい、 <u>公金や準公金の使途について監査の強化</u> を図っている。
改善すべき課題	○開校4年目の新しい学校であるが、経年劣化を見込んで、 <u>中・長期的な施設及び設備の更新計画</u> を立て、生徒の教育環境の保持に努めてもらいたい。

(2) 保護者・地域等との連携協力の状況

□保護者・地域等との連携協力の状況

優れた取組	○保護者に、様々な教育活動についての情報を積極的に伝え、PTAや <u>保護者の理解を得ることに努めている。</u>
改善すべき課題	○近隣の小中学校とは、サイエンスに関わる活動で連携を深めているが、地域との一層の交流を行い、 <u>まちの学校としての存在を築いてもらいたい。</u>

■危機管理の状況

優れた取組	○避難訓練、防災備蓄、職員研修会等の災害時における用意周到な取組により <u>生徒や保護者の安心</u> につながっていると判断できる。
改善すべき課題	○災害時における <u>緊急避難場所や避難経路</u> について、すべての生徒が不安にならないように十分に <u>周知徹底</u> し、避難訓練は様々な場合を想定した内容で実施したい。

□学校に関する情報公開の状況

優れた取組	○ <u>学校ホームページが頻繁に更新</u> され、メールマガジンの発行や年次通信等で学校情報の提供に努め、生徒や保護者の安心感につながっている。
改善すべき課題	○地域に対して本校の教育に関するPRや情報交換等の機会を定期的に持ち、 <u>学校と地域が協力・連携して生徒を育てる</u> ことを望む。

4 総合所見

□所見

<p>○創設4年目を迎え、意欲ある教職員と充実した施設・設備、そして学習意欲の高い生徒と共に堅実な歩みを始めている。<u>成果を焦らず、課題に対して一つひとつ着実に取り組んで</u>いってほしい。</p> <p>○世界で幅広く活躍する人材を育成するという使命を背負っており、社会からの期待も大きい。その期待に生徒が押しつぶされないよう教職員が一体となって、一人ひとりの生徒をきめ細かく指導してほしい。</p> <p>○理数科の学校であるが、生徒の数学や理科についての能力差もあると思われる。<u>習熟度別授業や補習等の取組を拡充することも視野に入れ、学習に不安のある生徒の学力向上を図って</u>ほしい。</p>
--

(2) 横浜市立みなと総合高等学校（訪問調査日：平成24年7月3日）

訪問調査担当者：永野 和行、田代 正樹、高瀬 茂

みなと総合高等学校の概要

創 立：平成13年11月

住 所：横浜市中区山下町231

学 校 長：宮崎 健

課 程 等：全日制総合学科

クラス数：18クラス

生 徒 数：711名（男子138名、女子573名）平成24年5月1日現在

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

■特色ある学校づくりの推進状況

優れた取組	<ul style="list-style-type: none">○海外からの<u>長・短期留学生や海外高校生訪問団の積極的な受け入れ</u>、国際交流バディの取り組みを行っている。○キャリア教育の分野では1年次で人間関係形成能力と情報活用能力の育成を図るため「産業社会と人間」というプログラムを取り入れている。こうした能力は社会で必要とされる能力なので今後も力を入れて取り組みを強化してもらいたい。○プログラムの内容も2週間に一度のミーティングで内容の再検討を行うなど実践的であると評価できる。
改善すべき課題	<ul style="list-style-type: none">○様々な<u>国際交流プログラム内容に更に広がり</u>と奥行きを持たせ、<u>極力多くの生徒に体験・学習の機会を提供</u>できるよう努めてもらいたい。

2 教育活動の状況

(1) 各教科等の状況

■教育課程の状況

優れた取組	<ul style="list-style-type: none">○学校教育目標に添った200近い選択科目を設置している。<u>選択に関する指導が十分に行われ</u>、<u>生徒が主体的に科目選択</u>をしている。
改善すべき課題	<ul style="list-style-type: none">○大学進学希望者が年々増加している。生徒のニーズや時代の要請に応じて、<u>教育課程の見直しに対応</u>してもらいたい。

□教科指導の状況

優れた取組	<p>○各教科、良く教育内容が検討され、<u>生徒に身に付けてほしい力と進学を見据えた学力をバランスよく指導</u>している。</p> <p>○ビジネスマネジメント科目では、多くの生徒が資格取得を目指して学習に励み成果をあげている。</p>
改善すべき課題	<p>○生徒によっては、家庭学習時間が十分に取れていないという課題がある。生徒たちに学ぶ楽しさや理解することの嬉しさを感じさせる部分を常に忘れずに日々指導に取り組み、<u>生徒の授業以外での学習時間の改善</u>に努めてほしい。</p>

□特別活動・部活動の状況

優れた取組	<p>○生徒会活動では生徒による<u>自主的・自発的な運営が行われ、学校行事は活発</u>に行われている。</p> <p>○部活動についても施設に制約がある中、意欲的に活動が行われている。</p>
改善すべき課題	<p>○職員会議や部活動顧問会で積極的に<u>特別活動や部活動における教育的意義の確認や活動の情報共有</u>をし、さらに発展するように取り組んでほしい。</p>

(2) 生徒の状況

□生徒指導・教育相談の状況

優れた取組	<p>○基本的な生活習慣の確立に向けた日常的な取組と共に<u>養護教諭・スクールカウンセラーを中心に毎週1回生徒情報交換会</u>を持ち、生徒理解に努めている。</p>
改善すべき課題	<p>○全教職員が生徒に関する情報を共有し、教職員が連携して生徒指導にあたる事が出来るよう、<u>組織的な取組の一層の充実</u>を図ってほしい。</p>

■進路指導の状況

優れた取組	<p>○進路別、職業別など年次毎にきめ細かく<u>生徒一人ひとりの進路に対応するガイダンス機能の充実</u>と1、2年次のスタディサポートの導入、3年次の模擬試験の実施などの取組みは評価できる。</p>
改善すべき課題	<p>○生徒や保護者の意向が一層反映されるよう生徒にアンケートを実施し、生徒が求めるガイダンスの内容やスタイルを探りだし、<u>3年間を見通した進路指導の充実、進学、受験への方策を体系的に組織的に構築</u>してもらいたい。</p>

□保健指導及び環境美化の状況

優れた取組	○リサイクルステーションを活用した分別活動やゴミの減量化、リサイクル活動の推進をし、 <u>生徒の環境美化への意識が高まっている</u> と判断できる。
改善すべき課題	○環境美化に対する生徒全体の意識の高揚が図れるよう、日常的な地道な取組とともに <u>システムの検討</u> もしてもらいたい。

3 学校経営の状況

(1) 各管理運営等の状況

■教育目標の設定・実施状況

優れた取組	○教職員は学校教育目標や学校経営方針を理解して教育活動にあたっており、より良い <u>学校づくりに努力している</u> と判断できる。
改善すべき課題	○教育目標への意識をより高めるためには教職員の議論が必要であると判断する。特別委員会等を設置し検討を重ね、 <u>教育目標の実施状況の精査</u> が必要である。

□組織運営及び教職員研修の状況

優れた取組	○総合学科推進部により校務の推進が行われ、教職員は、業務に対する意欲が向上している。特に <u>主幹教諭の適切な配置は功を奏している</u> と考えられる。
改善すべき課題	○計画的に正式な研修等を定期的に行うなどの研究・研修のシステムの構築を通して、 <u>教職員の研鑽に対する意識の高揚を図る</u> 必要がある。

□学校経理、施設・設備及び情報の管理状況

優れた取組	○[横浜市立学校における個人情報取り扱いについて]を遵守し、 <u>情報の適切な取り扱い</u> を行っている。
改善すべき課題	○横浜市の財政状況を鑑み、 <u>中・長期を展望した備品等の購入計画</u> の立案が必要である。 ○ <u>公金の予算配分</u> については、学校運営上、重要な部分と削除可能な部分を明らかにし検討していく必要がある。

(2) 保護者・地域等との連携協力の状況

□保護者・地域等との連携協力の状況

優れた取組	○学校ホームページの英文版の立ち上げ、PTA広報誌による情報提供など、 <u>教育活動や学校の様子を積極的に伝えようとしている。</u>
改善すべき課題	○学校と生徒の安心・安全を最優先しながら、様々な <u>アイデアを出し合いながら最適な地域</u> との連携を図ってもらいたい。

■危機管理の状況

優れた取組	○近隣の中学校2校と津波を想定した連携・共同の避難訓練を計画、実施するなど、 <u>生徒の安全確保、防災への意識高揚を図る取組</u> をしている。
改善すべき課題	○ <u>生徒の意識高揚、教職員の指導を徹底</u> し、一層安心・安全な学校づくりを目指してもらいたい。

□学校に関する情報公開の状況

優れた取組	○学校ホームページを頻繁に更新するなど充実させると共に学校説明会、学校見学会（4回）を実施するなど <u>広報活動を積極的に実践</u> している。
改善すべき課題	○学校ホームページに在校生専用ページを設け、学校の様子を日々公開したり、保護者向けに <u>学校情報を伝える手段に工夫</u> を凝らしていくことが必要である。

4 総合所見

□所見

<p>○海外からの留学生の積極的な受け入れや国際交流プログラムの取組等は、みなと総合高校の特色の根幹をなすもので、今後のさらなる発展や拡充を期待する。</p> <p>○みなと総合高校の生徒は明るく、快活で目標をしっかりと持って学校生活を送っている。学校の自由な雰囲気や伸び伸びとした雰囲気が好きな生徒が多い。なお一層充実した学校生活を送れるような学校づくりを目指してもらいたい。</p> <p>○総合科高校として、数多い選択科目を設置し、十分に選択指導もされている。<u>多彩な選択科目は魅力的だが、生徒の進路実現に向けた科目の精選</u>も必要である。</p>

(3) 横浜市立東高等学校（訪問調査日：平成24年7月6日）

訪問担当者：小松 郁夫、落合 優、林 誠之介

東高等学校の概要

創 立：昭和38年

住 所：横浜市鶴見区馬場三丁目5番1号

学 校 長：富地 正博

課 程 等：全日制

クラス数：21クラス

生 徒 数：820名（男子312名、女子508名）平成24年5月1日現在

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

■特色ある学校づくりの推進状況

優れた取組	<ul style="list-style-type: none">○平成24年度より各年次6単位の共通履修英語科目を設置し、英語教育の充実を図った。○<u>年1回以上の教員の研究授業を継続して行い、授業力向上に努めた。</u>○平成27年度設置予定のスポーツコースについて、校内プロジェクトを設置し、教育課程や基本方針等の検討を行った。
改善すべき課題	<ul style="list-style-type: none">○<u>スポーツコースの特徴を明確にし、それに応じた適切な入試方法を検討していくことが望まれる。</u>

2 教育活動の状況

(1) 各教科等の状況

□教育課程の状況

優れた取組	<ul style="list-style-type: none">○平成24年度より週1時間授業時間を増加し、週32時間授業となり、基礎基本の充実や<u>国公立大学の受験に対応した教育課程に変更</u>したことは評価できる。○確かな学力の定着と生徒の興味・関心、多様化する進路希望に応じた科目
-------	--

	<p>選択指導の実践を目指し、生徒へ授業ガイドの配布など、教科、学年、教務による組織的な指導を行っており、生徒の評価も良好である。</p> <p>○年度当初や評価時に、評価・評定方法の周知を図り、改善への努力が感じられる。</p>
改善すべき課題	<p>○生徒の評価の中で、進路に沿った科目選択について肯定的な回答が多少であるが昨年度よりも減少している。より<u>詳細な事前のガイダンス等、きめ細かな指導</u>を行うことが望まれる。</p>

■教科指導の状況

優れた取組	<p>○生徒の意欲的、主体的に授業に臨む状況が上向きであり、教科指導力向上へ向けて、<u>研究授業等の取組や生徒の授業評価の活用が一定の成果</u>を上げていると考えられる。</p>
改善すべき課題	<p>○生徒の授業評価集計の中で否定的意見が、数科目散見されている。優れた授業がある一方で、あまり効果を上げていない授業も見られるので、<u>授業力の底上げに組織的に取り組む必要</u>があると思われる。</p> <p>○生徒の教科学習への意欲や、家庭学習の習慣化に向けた取組をさらに強化することが望まれる。</p>

□特別活動・部活動の状況

優れた取組	<p>○約9割の生徒が部活動に参加し、恵まれた体育施設と総合部室などの関連施設が有効に利用されている。</p> <p>○生徒会・学校行事など、生徒の主体的な活動が見られ、活動内容について<u>生徒及び保護者から充実しているとの高い評価</u>を得ている。</p> <p>○社会体験活動において、自治会防災訓練等への参加など、多数の生徒が参加し、地域への貢献度が高い。</p>
改善すべき課題	<p>○行事や特別活動の時期やあり方の見直しが行われているが、<u>生徒・保護者・教職員の相互の理解や連携の促進</u>にも努めてほしい。</p>

(2) 生徒の状況

□生徒指導・教育相談の状況

優れた取組	<p>○組織的に生徒指導・教育相談に取り組んでおり、相互の協力体制の強化も図られている。特に、様々な<u>生徒の悩みの聞き役や相談窓口としての養護教諭が複数配置され、効果を上げている</u>と考えられる。</p>
改善すべき課題	<p>○教職員の「社会性に関する生徒指導にすべての教職員が協力している」に対する肯定的な意見が5割程度なので、指導に関する合意形成を図るための協議を実施したい。</p> <p>○生徒の評価の中で「<u>生徒同士のトラブルはない</u>」への否定的意見が<u>35%で前年度より14ポイント増加</u>しているため、状況の把握に努め、生徒の自己管理能力の向上も視野に入れた個人個人への対応を深める方向も大切と考える。</p>

■進路指導の状況

優れた取組	○教員の情報共有や協力体制、生徒の実態把握にも配慮がなされ、進路指導能力が向上するとともに、進路指導部を中心として組織的な指導が行われているため、 <u>大学への進学実績が向上</u> したと考えられる。
改善すべき課題	○ <u>随時進路情報を収集し、それらを教職員が共有</u> することにより、より適確な進路指導を行っていくことが望まれる。

□保健指導及び環境美化の状況

優れた取組	○生徒に対する保健講話、保護者への保健だよりなどにより、健康への意識を高める取組が行われている。 ○校内清掃、ゴミの分別などについても、 <u>実践面、意識面での向上にむけた努力</u> がなされている。
改善すべき課題	○生徒の健康面に配慮しているという意識や、校内美化に対する意識の向上に努め、 <u>学校生活全般を通じた指導の継続</u> が望まれる。

3 学校経営の状況

(1) 各管理運営等の状況

□教育目標の設定・実施状況

優れた取組	○[教育目標] → [教育課程／特別活動・部活動] → [カリキュラムの実際／学校行事や部活動の実際] → [進路先] に至る一連の <u>高校生活の流れが、学校案内にきわめてわかりやすくまとめられ、公開されている。</u>
改善すべき課題	○日ごろの具体的な活動の際に、 <u>理念と活動の関連付けを強調</u> すると、教育活動がより一層理解されると考える。

■組織運営及び教職員研修の状況

優れた取組	○校務運営組織検討委員会を設けて、 <u>業務効率化</u> に向けて役割分担、人員配置、委員会等の適切性についての確認が行われている。
改善すべき課題	○教職員研修では、計画的に研究・研修を行うシステムを構築し、 <u>教職員の研鑽に対する意識の高揚</u> を図りたい。

□学校経理、施設・設備及び情報の管理状況

優れた取組	○学校経理において、 <u>マニュアルに基づき適切に校務処理</u> が行われている。
-------	---

改善すべき課題	○メンテナンスが必要な施設等がある。 <u>計画的に整備</u> することが望まれる。
---------	---

(2) 保護者・地域等との連携協力の状況

□保護者・地域等との連携協力の状況

優れた取組	○帰国生徒保護者会などを通じて保護者との連携に努めている。 ○東高祭、体育祭の公開や、社会活動体験委員会の活動として地域の学校・保育園との交流、防災訓練への参加などにより、 <u>地域との交流を図り成果</u> をあげている。
改善すべき課題	○地域での活動では、広報活動をさらに進め、 <u>生徒に地域の一員としての自覚</u> を十分に持たせることが望まれる。

□危機管理の状況

優れた取組	○緊急時の学校の対応方法の周知や防災カードの配布、学校ホームページのQRコードの保護者への伝達等の処置とともに、 <u>緊急時の下校等の対応について、基本的な対策を図り、生徒・保護者への確認</u> を行っている。
改善すべき課題	○学校留め置き希望生徒数よりも多めの水、食料等の備蓄や緊急時の家庭への情報提供手段としてメール配信などの緊急時への対応について、今後も <u>学校・生徒・保護者間の相互理解を維持</u> していくことが望まれる。

□学校に関する情報公開の状況

優れた取組	○募集に関する学校説明会を積極的に行い中学生や保護者に情報提供が行われ、 <u>学校ホームページでの学校紹介を改善し情報公開に努めている。</u>
改善すべき課題	○中学生や保護者に関心を持ってもらえるよう、 <u>学校ホームページでの最新情報の提供</u> などに心がけたい。 ○技術担当者とは別に学校ホームページの企画運営者を設けて、 <u>技術担当者の負担を軽減</u> することも大切である。

4 総合所見

□所見

- 東高校の教育目標「あたりまえのことをあたりまえに出来る人間」は、時代を超えて生き続ける内容と考えられる。その時々状況への対応は大切であるが、教育目標の示す基本的な方向は堅持していくことが大切である。
- 大学進学状況が上向きになっているのは、生徒の学習への意欲を向上させる様々な学校の取組が功を奏したと思われる。これからも、さらに向上するように進路関係の部署を中心にして改善を図ってもらいたい。
- 平成 27 年度のスポーツコース設置に向け、平成 27 年度以降に入学してくる中学生やその保護者への広報活動が大変重要になるとと思われる。設置までに改善すべき課題は多いが魅力あるスポーツコースも一般コース同様に文武両道を目指してもらいたい。

5 第三者評価の活用

市立高等学校評価の活用について、「横浜市立高等学校評価実施要綱」第 2 条（学校評価の目的）では、「市立高校評価は、教育活動その他の学校運営の組織的、継続的な改善、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり及び教育委員会による適切な支援を行うことを目的として実施する。」と規定しています。

今回取りまとめた第三者評価については、外部の有識者が実際の学校訪問や、教職員からの聞き取り、あるいは生徒との意見交換や書類調査を通じて市立高校の現状について評価していただいたものです。

教育委員会では、今回評価をしていただいた内容について各学校と協議を行い、市立高校の学校運営の改善、学校教育の充実を図るため、学校と連携しながら必要な予算の確保等、取組・調整を進めてまいります。

評価に対する教育委員会の取組案（例）

指摘内容	今後の考え方
キャリア教育の一層の推進	外部の専門家と連携したキャリア教育・就職支援を検討する。
専門コース等の設置に向けた施設、選考方法等の検討	学校と連携しながら施設整備方針、特色検査の内容等を検討する。
横浜総合高校における、生徒同士のコミュニケーションがとりにくいなど、多部制独特の課題の改善	旧県立大岡高校への移転により、施設を拡充する。
中高一貫教育校の 6 年間を見通した教育課程が円滑に進行するよう検討	中高一貫教育校の先進的な取組の情報提供をし、学力向上に向けた具体的な方策を学校と連携して進める。
進学指導重点校の取組を、生徒・保護者に理解させる取組が必要	年度当初の保護者対象懇談会や進路学習会の中で、生徒一人ひとりの学力向上に向

	けた具体的な取組をわかりやすく説明するよう学校に指示する。
スクールカウンセラーの拡充	平成25年度に向け、配置の拡充を検討する。
ホームページでの情報提供の充実	学校と連携して、保護者・生徒の必要な情報提供の充実を検討する。
授業力の向上、教員研修の充実	市立高校教育課程研究委員会と連動した、全教科での研究授業の実施などを通して、授業力の向上を図る。

来年度は、学校の取組に対する評価だけでなく教育委員会の教育行政についての意見をもらえるような工夫や、教育委員会が各高校をどう評価するのかといった内容を報告書に盛り込むなどの工夫をまいります。

参考資料

学校教育法

第42条 小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

※幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等にもそれぞれ準用

学校教育法施行規則

第五節 学校評価

第66条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行いその結果を公表するものとする。

2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。

第 67 条 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く。）による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

第 68 条 小学校は、第六十六条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。

※幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等にもそれぞれ準用

横浜市立学校の管理運営に関する規則

第 3 章 高等学校（第 34 条—第 41 条）

（学校評価）

- 第 36 条の 5 校長は、高等学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価（以下この条において「自己評価」という。）を行い、教育活動等に反映させるとともに、その結果を公表するものとする。
- 2 校長は、自己評価の結果を踏まえた当該高等学校の生徒の保護者その他の当該高等学校の関係者（当該高等学校の職員を除く。）による評価（以下この条において「学校関係者評価」という。）を行い、その結果を公表するものとする。
 - 3 前 2 項の評価を行うに当たっては、校長は、教育長が定める基準により、学校の実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。
 - 4 校長は、自己評価及び学校関係者評価の結果を教育委員会に報告するものとする。
 - 5 教育委員会は、自己評価及び学校関係者評価の結果を踏まえ、高等学校の教育活動その他の学校運営の状況について、当該高等学校に直接かかわりをもたない専門家等の第三者による評価を行い、その結果を公表するものとする。
 - 6 第 1 項から前項までに規定するもののほか、学校評価の実施に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

参考：小・中学校及び特別支援学校の「学校評価」に関する規定

第 1 章 総則

（学校評価）

- 第4条の2 校長は、小中学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価(以下この条において「自己評価」という。)を行い、教育活動等に反映させるとともに、その結果を公表するものとする。
- 2 校長は、自己評価の結果を踏まえた当該高等学校の生徒の保護者その他の当該高等学校の関係者(当該高等学校の職員を除く。)による評価(以下この条において「学校関係者評価」という。)を行い、その結果を公表するものとする。
- 3 前2項の評価を行うに当たっては、校長は、教育長が定める基準により、学校の実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。
- 4 校長は、自己評価及び学校関係者評価の結果を教育委員会に報告するものとする。
- 5 第1項から前項までに規定するもののほか、学校評価の実施に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

*特別支援学校についても準用。